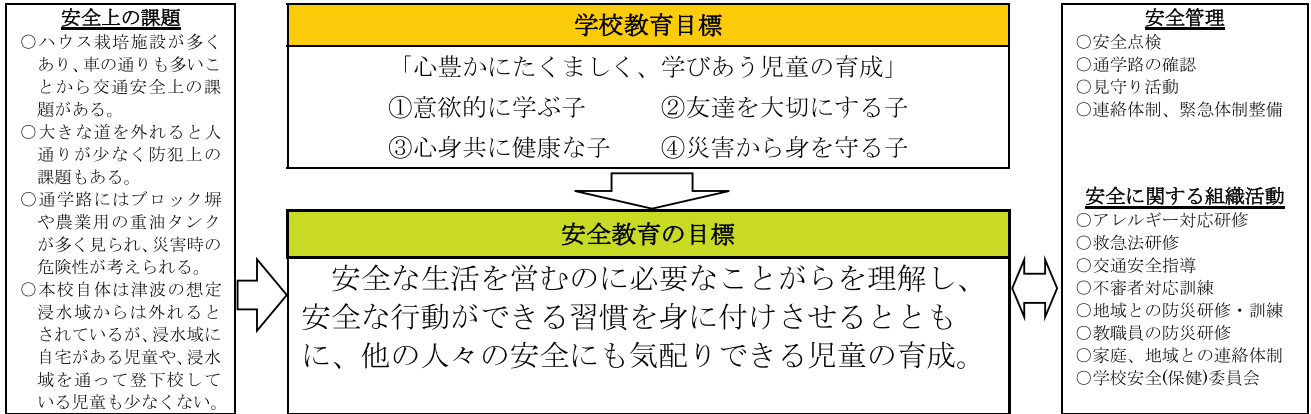


VI 安全教育全体計画 例

〇〇小学校 安全教育全体計画



学年別重点目標		
【低学年】	【中学年】	【高学年】
<p>【生活安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○廊下や階段を安全に歩いたり、遊具を正しく使ったりすることができる。 ○できるだけ友達と一緒に登下校することが、身を守ることにつながる意味を理解している。 <p>【交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道を渡る時の「とまる・みる・たしかめ」の確認行動を身に付けている。 <p>【災害安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所へ移動し大事な頭を守ることを理解し、行動しようとしている。 ○どこにいても自分で判断して避難することができるよう、校区の津波避難場所を知っている。 	<p>【生活安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○廊下や階段を安全に歩いたり、道具を使うときには、周囲の安全に気を配ったりすることができる。 ○登下校時に見守ってくれる地域の人を知る。 <p>【交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な危険の原因や事故の防止について理解し、危険に気付くとともに安全な行動ができる。 <p>【災害安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示を待つことなく自分の判断で行動しようとしている。 ○地震発生時に、強い揺れ、長く揺れたらすぐに避難しようとしている。 ○災害時には、家族や友達、周囲の人々と協力して危険を回避できる。 	<p>【生活安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○さまざまな状況下における校内での過ごし方を認知し、ルールを守ることができる。 ○登下校時は、周囲の状況を確認しながら歩くことができる。 <p>【交通安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な場面で発生する危険を予測し、進んで安全な行動ができる。 ○自分自身の安全だけでなく、家族など、身近な人々の安全にも気配りができる。 <p>【災害安全】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指示を待つことなく自分の判断で行動することができる。 ○地震発生時に、強い揺れ、長く揺れた時は津波が来ると想定し、自ら判断して最も近い高台へ避難することができる。 ○災害時には、家族や友達、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができる。

関連する主な領域及びその指導内容			
	【低学年】	【中学年】	【高学年】
教科	○生活科内容(1)学校生活に関わる活動 ・みのまわりのあんげん ○生活科内容(2)地域に関わる活動 ・町たんけん「みんなでつかう場しょへ行こう」(2年)	○社会科4年(3)自然災害から人々を守る活動 ・「安全な暮らしを守る」 ○社会科4年(4)県内の伝統文化、先人の働き ・「地域の発展に尽くした人々」	○社会科5年(5)我が国の国土の自然環境と国民生活 ・「災害から人々を守る」 ○体育科G保健(2)けがの防止 ・事故やけがの防止
道徳	○主として自分自身に関すること〔節度・節制〕 ○主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〔生命の尊さ〕	○主として自分自身に関すること〔節度・節制〕 ○主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〔生命の尊さ〕	○主として自分自身に関すること〔節度・節制〕 ○主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること〔生命の尊さ〕
学習の時間	総合的な学習の時間		○総合的な学習の時間(3)探究課題の例…現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題 ・「〇〇町のことをもっと知ろう」(3年) ・「〇〇町を調べてしようかいしよう」(3年) ・「〇〇川環境学習」(4年) ・「暮らしを支える人々」(4年)
特別活動	<p>学級活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が来たらどうする？ ・津波から身を守るには？ ・危ないことをしていないか考えよう 	<p>どこにいても地震の揺れから身を守ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・揺れがおさまっても・・・危険は続く ・地域の防災に関わる人たち ・安全に通学しよう～自分で守る、みんなで守る～ 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害と情報 ・山の津波「土砂災害」 ・避難生活を考えよう ・急な大雨・雷・竜巻から身を守る ・自転車ルールの理解と安全行動計画
行事	○地震津波避難訓練(授業中、休み時間、掃除中、時間と場所を変えて)	○避難訓練(大雨・水害)	○火災避難訓練
	○引き渡し訓練 ○弾道ミサイル対応訓練 ○防犯教室 ○対面式(見守り隊との顔合わせ)	○不審者対応訓練 ○交通安全教室 ○心肺蘇生法講習会(AEDを含む)	

安全教育の成果を測る指標
<ul style="list-style-type: none"> ○どこにいても地震からの身の守り方を知っていると回答する児童が約90%。(安全意識アンケートの結果) ○「本当地震と違って行動できた」に対して肯定的な回答をする児童が昨年度約85%→約90%。(毎回の避難訓練実施後の振り返りカードの結果) ○見守りに携わっている地域の方や保護者の顔を知っていると回答する児童が100%。(安全意識アンケートの結果) ○自転車で乗るときにはヘルメットを被っている児童が100%。(安全意識アンケートの結果)